

研究課題名	頭部外傷診療の現状把握と集学的治療効果の検討
研究機関名	東京医科歯科大学附属病院、武蔵野赤十字病院、災害医療センター、土浦協同病院、青梅市立総合病院
研究責任者	所属 脳神経外科 氏名 玉置正史
研究期間	(西暦) 2023年 6月 ~ (西暦) 2027年 12月
研究の意義・目的	頭部外傷は頻度の多い疾患ですが、重症例では治療介入の遅れにより生命にかかわることや重度の後遺症が生じてしまうことが珍しくありません。また、社会の高齢化は急速に進んでおり、高齢者の頭部外傷患者数が顕著に上昇している現状に対し、治療介入による転帰良好例は大きな変化がみられていません。こうした現状を鑑み、今後の頭部外傷診療において有効な医療行為を提供していくため、より多くの臨床データを通して多角的に現状を把握し、効果的な集学的治療を行っていくための検討を行うことが本研究の目的です。
研究の方法 (対象期間含む)	当院および共同研究施設へ頭部外傷にて救急搬送となった患者さんの、受傷時あるいは入院後の臨床データや画像データ、治療経過といった情報を収集し、より適切な治療方法を研究行います。この研究は当院の倫理審査委員会の承認および機関長の許可を得ております。対象となる患者様は、2023年 6月 1日から2028年6月30日までに頭部外傷にて救急受診される方です。
①試料・情報の利用目的及び利用方法 (匿名加工する場合や他機関へ提供される場合はその方法含む) ②利用し、又は提供する試料・情報の項目 ③利用する者の範囲 ④試料・情報の管理について責任を有する者の氏名又は名称	①当院に頭部外傷にて搬送となった患者さんの情報を、匿名化して利用いたします。具体的には、通常の救急診療で作成される搬送記録、診療記録から必要なデータを抽出して、匿名化してデータベースを作成します。 ②救急隊接触時、病院到着時、来院後経過の以下の項目を研究に用います。身体状況・神経学的所見(意識レベル、体温、心拍数、呼吸数、血圧、瞳孔径、対光反射、体表上の頭部打撲痕、嘔吐、意識消失、痙攣、意識レベル低下、片麻痺、多発外傷、開放または陥没骨折の有無)、受傷状況(高エネルギー外傷)、受傷前状況(飲酒、抗凝固薬内服の有無)、来院後のCT所見、および外科的治療(ICPモニター留置、手術加療)。 ③提供いただいた医療データは厳重に管理保管され、本研究のみに使用されます。 ④資料・情報の管理については、当院においては研究責任者 玉置正史がその責任を有し、提供されたものについては主研究機関である東京医科歯科大学医学部附属病院 脳神経外科 稲次基希 が責任を有します。
問合せ先	当研究に自分の試料・情報利用を停止する場合等のお問い合わせ 〒180-8610 東京都武蔵野市境南町1-26-1 武蔵野赤十字病院 所属 脳神経外科 氏名 荻島隆浩 玉置正史 TEL : 0422-32-3111 (代表) 6812 (事務局内線) FAX : 0422-32-3525